

FDのための情報技術研究講習会開催結果の概要

1. 参加状況

開催日：令和7年2月25日(火)

場 所：追手門学院大学茨木安威キャンパス

参加者：38名・32大学1短期大学（前年度37名・33大学1短期大学）

2. 研究講習会の目標

学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出に向けて、反転授業、生成AIの利活用対策、著作権対応、オンデマンド教材作成、生成AI含む対面・オンライン授業でのICT活用、データサイエンス授業などについて、基礎的な理解を深め実践できるよう、「全体会」と「ワークショップ」を設定した。

3. 実施結果

(1) 参加教員全員を対象とする全体会では、「反転授業の質を高める効果的な授業方法」、「生成AIの利活用対策」、「生成AIを含むデジタル教材の著作権対応」について説明を行った。

参加された教員から、良かった、勉強になったとの感想が多く寄せられた。以下に主な感想を紹介する。

- ・ 反転授業について昨年に引き続き聴講し、自らの授業運営を振り返ることができた。
- ・ 生成AIの著作権を含む教育利用を知る目的で参加し、現状を知ることができてよかった。
- ・ 日頃は自分たちだけで、調べながら進めていたAI対応などの課題について、専門や実践の立場からの話をうかがえて大変勉強になった。
- ・ いずれの講演も新鮮かつ有意義であり、今後の教育実践の参考になったなど。

(2) ワークショップの達成度を以下に掲載する。アンケート23名(6割)の回答

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① オンデマンド教材を作成してみよう		9割(11人)	1割(1人)
② 文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える		7割(7人)	3割(3人)
③ 対面・オンライン授業(生成AI含む)でのICT活用法	1割(1人)	9割(14人)	
④ 事前学習を促進する反転授業を考える	1.5割(1人)	7割(5人)	1.5割(1人)

(3) 以下にワークショップの参加者からの主な感想を紹介する。

① オンデマンド教材を作成してみよう

- ・ 学生から授業時間外学修で配信している動画に字幕をつける要望を受け参加し、さまざまなアプリや機能が知れて良かった。
- ・ 使ったことがないソフトや知らなかった機能の操作で戸惑ったが、慣れれば便利に活用できると思った。
- ・ もう少し踏み込んだ内容を想定していたが、予想以上に基本的な内容だった。

② 文系学生向けデータサイエンス授業デザインを考える

- ・ 学生に実践させたいテーマで役に立った。
- ・ 文系学生に必要なスキルを知ることができたのはよかったと思う。
- ・ マーケティングの分析方法をもっと聞きたかった。

③ 対面・オンライン授業(生成AI含む)でのICT活用法

- ・ 多岐に渡る内容をわかりやすく説明され、体験もスムーズにできてとてもためになった。
- ・ 様々なツールを知り、使ってみたいとも思ったが、コスト的に厳しいと感じる面もあった。
- ・ 生成AIをどのように活用できるのか、その領域が把握でき、学部でも共有していこうと思う。

④ 事前学習を促進する反転授業を考える

- ・ 分野の少し異なる方の視点は、やはり参考になる部分があり、学内でも検討できればと思う。
- ・ 反転授業という言葉自体知りませんでしたが、実践されている先生とのグループ作業を通して、反転授業が学生の知識の定着に寄与できるのではないかと思った。
- ・ 個別対応をしてほしかった。